

『ことばは神』

2025年3月19日(水) マリヤ会

奨励：赤井博夫

賛美：新聖歌 220 番

聖書箇所：ヨハネの福音書 1 章 1 節～18 節

本日は「ヨハネの福音書 1 章 1 節～18 節」から共に学んでいきたいと思います。

物語には、序文があり転換・説明・結論へと進んでいきます。別の言い方をすれば起承転結です。

旧約聖書の書き出しは『はじめに神が天と地を創造された』です。

主語が神ですから、天地の物語ではなくて、あくまでも神の物語ということになります。

新約聖書の書き出しは『アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図』ですから、「イエス・キリスト」の物語だということが分かります。

聖書は新旧 66 巻でできていますが、それぞれの巻にも序文と説明と転換と結論があります。

今日のヨハネの福音書の書き始め、いわゆる序文は『初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。』です。

続く 2 節は転換（別の言い方）で、『この方は、初めに神とともにおられた。』

そして 3 節からは『ことば』と『この方』の説明になります。

『すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。』

続く 4 節も『この方』の説明です。『この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった』と。

このように今日読みましたヨハネの福音書 1 章 1 節～18 節は序文・転換・説明・結論の繰り返しで進んでいきます。

そして 18 節をご覧ください。『いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである』これが結論になります。

ヨハネは 12 弟子のひとりで「雷の子」と呼ばれ、瞬間湯沸かし器のような激しさがあったようです。ガリラヤ湖畔の漁師であったゼベダイの子の次男で、長男はヤコブです。

まさにイエス・キリストと同時代に生きたいわば「生き証人」です。私は若い頃『同時代のこと』という本を読んだことがあります。中身はほとんど忘れましたが、今生きている時代ことは現象としては見ていますが、近すぎて「理解できていない」というようなことだったと思います。

いま私たちは、「コロナ禍」「戦争」「災害」「AI 革命」の中に生きています。情報も洪水のように押し寄せてきます。しかし、これらの出来事がこれからの将来にどのような結果をもたらしていくのかわかりません。

イエス・キリストとともに生きた弟子たちが、イエス様の言葉を十分理解していたとは思えない場面が多々あります。

このヨハネの福音書は、長生きしたヨハネが、イエス・キリストが亡くなってから 30 年以上経って晩年に書いたと言われています。イエス様の姿ははるかかなたのことです。ただ言わ

れていた言葉だけが残ри、いまになってようやく理解できた。まさにことばはイエス・キリストそのものであったのです。ここで言われていることばは、「イエス・キリスト」です。今読んでいたところにもことばという言葉が13回出てきます。言葉をイエス・キリストに変えて読んでみましょう。

私たちも救いに入れられた時には必ず「ことば」が伴っています。この「ことば」によって私たちは、その後の人生を生きていると言っても過言ではありません。

私も『まず神の国と神の義を求めよ』が転換点になった言葉です。ですから、救われる以前と以後は『教会礼拝第一』か否かが大きな違いで、その後は「御言葉」が日々の生活の原動力です。救われて43年、私には思い出に残る礼拝があります。ある時、仕事でトラブルがあって、書類の整理に徹夜になりました。翌日は主日で私は礼拝の司会に当たっていました。こんな寝ぼけ眼の顔で講壇に立たせていただいて良いか一瞬迷いました。しかし、そこで頭をよぎったのが『まず神の国と神の義を求めよ』でした。職場か教会に駆け付け、神様に助けていただいて、無事に任を終わらせていただいた経験があります。

これまで1年間に主日が50回として、この礼拝も含めて2000回以上の礼拝に出席させていただいたことになります。私たちは1週間の一回り一回りを礼拝をもってリセットし、新たな1週間に「御言葉」をもって歩み出します。その繰り返しです。

神様は創世記1章3節で暗く形のない混沌に働きかけて『光あれ』と言われました。そのことばが動力となって『光』が生まれたのです。まさにことばは神でありました。

甥っ子に物理学を専攻した子がいます。子と言ってももう40歳を過ぎています。私は彼が大学院生のとき「何を研究してるの？」と聞いたところ「物性」と答えました。さらに「物性とは何？」と聞きますと「物の成り立ち。物がどのように出来てきたかの研究」だと答えました。「神の領域やねえ」といいますと、小さくうなづいて「そうです」と彼は答えました。彼は世田谷中央教会で日曜学校、同盟の松原湖キャンプも経験しています。まだ信者ではありませんが、結婚式も世田谷中央教会で挙げさせていただきました。私の父は大阪から駆け付け、教会での孫の結婚式を手土産に、その6か月後に天に召されました。彼がイエス様を救い主として受け入れるように天でも地でも祈っています。

今日読みました1節～18節に「ことば」が13回出てきます。「光」が8回。「命」が2回。その他「この方」「まことのひかり」「ひとり子」など。これらはすなわち「イエス・キリスト」です。イエス・キリストに変えて読めば、より理解できます。

不透明な先行きの見えない時代にあっても、神の言葉はいつまでも変わりません。

柏原教会は今年、伝道集会が幾つか予定されています。一人でも多くの方を教会にお誘いし、私たちの遣わされるところで、地の塩、世の光として言葉を伝えていきましょう。

『初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。』

聖書は神の靈感を受けて書かれています。どこを切っても神のことばです。御言葉は生きる原動力です。それはまた御言葉に生かされた者として「御言葉を伝えていく者」にならせていただくということにほかなりません。

どんなに時代は暗く、混沌としていても、神様が「光あれ」と言われれば、闇は晴れるのです。

『ことばは神』です。神の言葉を信じて生かさせていただきます。